

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 152人	社会 152人	数学 152人
	理科 152人	英語 152人	

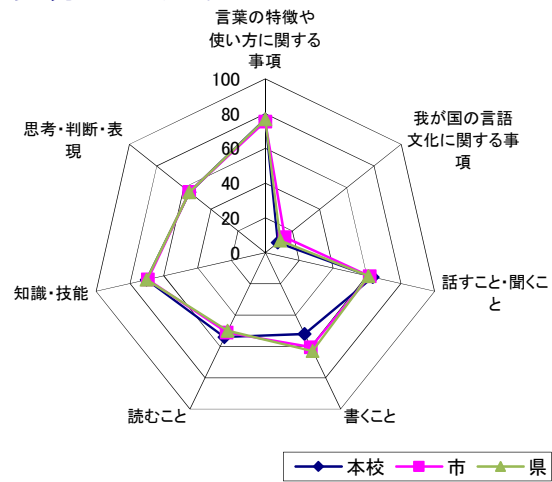
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.8	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	9.2	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	63.5	61.6	60.9
	書くこと	52.0	60.4	62.9
	読むこと	54.0	51.0	49.9
観点	知識・技能	70.1	69.4	70.1
	思考・判断・表現	55.8	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

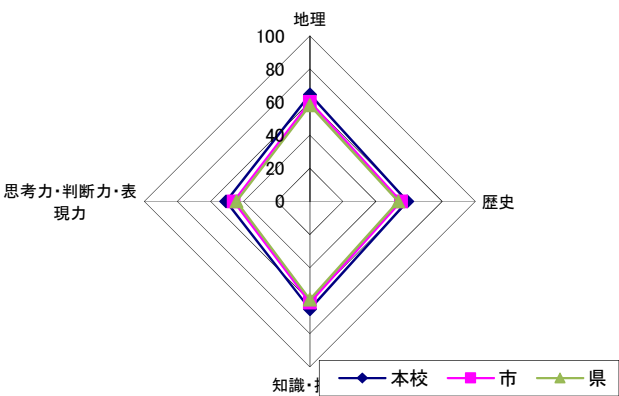
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○全体的な正答率は市平均を1.3ポイント、県平均を0.1ポイント上回っている。 ○漢字の基本的な読み書きの問題の正答率は、「幹」の読みを問う問題を除く全ての問題において市・県の平均を上回っている。 ●文法事項の理解を問う問題の正答率は、市・県の平均と同じか下回っている。 ●故事成語の使い方を問う問題の正答率は、市・県の平均をそれぞれ2.6ポイント、6.0ポイント下回っている。	・引き続き、漢字の読み書きの学習を、漢字ワーク等を用いて指導する。 ・文法事項について定着を図れるように、問題演習を増やすことと苦手意識を持つ生徒に対して個別の支援を行う。 ・故事成語をはじめ、慣用表現やことわざなどの基本的な語彙を増やす指導を日頃から意識する。教科書本文に登場する慣用表現を適宜取り上げながら意味を確認し、生徒自身にも豊かな言い回しを意識させる。
我が国の言語文化に関する事項	●歴史的仮名遣い「ひとしほ」を現代仮名遣いに直す問題について、正答率が県平均11.2%であったが、本校の結果は市の平均を5.1ポイント下回っている。	・古語の語頭の「ひ」は現代仮名遣いで「い」と直さないことの指導不足と現代仮名遣いに直した後の「ひとしお」という言葉を知らないことが誤答の原因の一つと考えられるため、①古語の語頭の「ひ」は現代仮名遣いで「い」と直さないことを改めて指導すること、②読書等を通して様々な語彙に触れ、持っている語彙を増やすことの指導に重点を置く。
話すこと・聞くこと	○全体的な正答率は、市平均を1.9ポイント、県平均を2.6ポイント上回っている。 ○全ての問題において、正答率が市・県の平均を上回っている。 ●話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかを問う問題において、条件に従って自分の考えを書く問題についての正答率が29.6%であり、無解答が17.8%である。 ●上記問題について、「山崎さんの意見を踏まえた内容を書くこと」という条件を満たさなかった解答類型が29.0%あった。	・自分の意見を述べる際に、他者の意見や資料などを基に話すように指導する。 ・他者の意見や資料を正しく捉えるためのポイントを指導する。
書くこと	●全体的な正答率は、市平均を7.6ポイント、県平均を10.9ポイント下回っている。 ○全4項目において、字数不足や条件を満たさない等の理由により正答とはならないものの、何らかの解答を書こうとした解答類型の割合は市・県平均を上回っている。 ●全4項目において、無解答の割合がそれぞれ17.8%・17.8%・19.1%・19.1%であり、およそ2割が無解答である。「話すこと・聞くこと」の記述式解答も、17.8%が無解答、「読むこと」の2問の記述式解答もそれぞれ24.3%、23.7%が無解答である。	・「文章を書く」ことに抵抗や苦手意識がある生徒(記述式問題が無解答になってしまう生徒)に対しては、簡単なテーマについての50～100字程度や3文程度の短文を数多く書かせ、「文章を書く」ことに慣れさせる。毎日書いている『宮っ子ダイアリー』を継続することも効果的であると考えられる。 ・諦めずに何らかの解答を書こうとしているが、正答条件を満たせない生徒に対しては、テーマの捉え方のポイントや相手に伝わる「文章を書く」ための文章構成を指導する。
読むこと	○全体的な正答率は、市平均を3.0ポイント、県平均を4.1ポイント上回っている。 ○全8問中、6問の正答率が市・県平均を上回り、本文から答えを書き抜く問題については2問とも正答率が70%を上回っている。 ●説明的文章について、文章内容を叙述に基づいて捉え、文章を説明した内容の文の空欄に当てはまる言葉を書く問題の正答率が、市平均を0.3ポイント下回っている。 ●文学的文章について、表現の効果を根拠をもって捉える問題の正答率が市平均を0.9ポイント下回っている。	・ななめ読みではなく、正確に文章内容を読み取ることを指導する。接続する語句などに着目して読む習慣をつけさせ、文と文のつながりや内容のまとまりごとの関係性を捉えられるようになることで、読解の正確性が高まると考えられる。 ・文章表現の工夫の効果について、生徒自身が考える授業を展開し、他者の考えと比較させ理解を深める。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	64.6	60.1	58.1
	歴史	58.9	55.1	53.5
観点	知識・技能	65.1	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	50.6	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

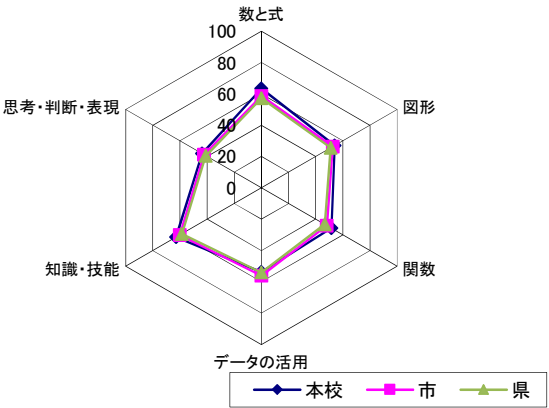
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○校内正答率が県・市よりも上回っている。 ○特に、日本の排他的経済水域に関する問題では、県平均正答率をおよそ12ポイント上回っており、知識・技能の定着がみられる。 ●世界の諸地域の問題のうち、資料を読み取り、ヒンドゥー教の分布を読み取る問題では、地理分野で唯一宇都宮市の平均を下回っている。	・資料をもとに考察し、答えを選択したり記述式で表現したりする問題では、県平均正答率が非常に低く、本校においても同様であった。日頃の授業においても、さまざまな資料を読み取る活動を充実させるとともに、問いに対する回答を、自分の言葉で表現させる活動を積極的に取り入れたい。 ・資料を読み取って考察する上で必要となる基礎的・基本的な知識や技能を、学習指導要領に基づいて授業を展開することで確実に定着させたい。
歴史	○校内正答率が県・市よりも上回っている。 ○古代文明の特色や室町時代の民衆の生活についての問題では、県平均正答率を5ポイント以上上回っており、知識・技能の定着が見られる。 ○平安京遷都について、複数の資料をもとに考察する問題では、県平均正答率を9ポイントほど上回っており、思考・判断・表現の力の定着が見られる。 ●古代ギリシャについての理解を問う問題では、県平均正答率を4ポイント、応仁の乱の影響についての理解を問う問題では、4.8ポイント下回っている。	・基礎的な知識を記述短答する問題の正答率に低いものが見られたが、学習指導要領に基づいて授業を展開し、すべての時代における歴史的事象の知識を定着させるとともに、選択だけでなく記述できるようにさせたい。 ・複数の資料をもとに考察し、記述して表現する問題では県平均正答率を上回ってはいるが、その正答率自体が低い。日頃の授業においても資料を読み取らせて考察させ、自分の言葉で表現させる活動を積極的に取り入れたい。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.4	58.6	57.2
	図形	54.0	52.6	51.1
	関数	51.5	48.2	46.8
	データの活用	53.7	56.1	54.1
観点	知識・技能	62.9	60.2	58.6
	思考・判断・表現	43.8	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

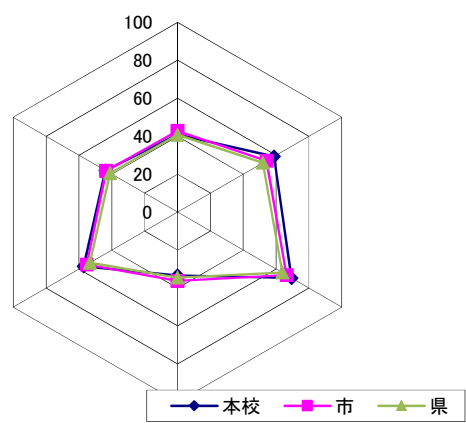
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市と県の平均を、それぞれ6.2ポイント・4.8ポイント上回っている。 ○「数量の関係を不等式に正しく表しているものを選ぶ」では、市の平均を10.1ポイント、県の平均を11.7ポイント上回っている。 ●「与えられた式に対応する図を選ぶ」では市の平均を8ポイント県の平均を6ポイント下回っている。	・全体的に数と式に関する問題については、問題を理解している生徒が多い。しかし、個人的に弱点がある問題については個別にわかるまで指導していく必要がある。 ・「与えられた式に対応する図を選ぶ」問題については、式と図との関係性に気付けない生徒が多いので、数多くの演習問題を通して理解させたい。
図形	○市と県の平均を、それぞれ1.4ポイント・2.9ポイント上回っている。 ○「回転移動した角度について正しいものを選ぶ」では市の平均を5.8ポイント県の平均を9.5ポイント上回っている。 ●「円柱の側面積を求める式について、正しいものを選ぶ」では、市の平均を2.5ポイント、県の平均を2.4ポイント下回っている。	・平面図形に関する内容を理解している生徒は多いが、空間図形に関する内容を理解していない生徒も多いので、問題演習等を通して、理解できるように指導していきたい。 ・ICTを活用することで、視覚的に理解できるように教材を利用して指導していきたい。
関数	○市と県の平均を、それぞれ3.3ポイント・4.7ポイント上回っている。 ○「反比例の関係における、yの値から、反比例の式を選ぶ」では、市の平均を8.8ポイント、県の平均を11.1ポイント上回っている。 ○「yがxの関数になっているものを選ぶ」では、市の平均を5.1ポイント、県の平均を7.2ポイント上回っている。	・比例、反比例ともに内容を理解している生徒が多い。さらに多くの演習問題を解かせることで、理解の定着を図りたい。 ・関数に対する問題についても理解している生徒は多いが、関数と比例・反比例の関係性について、より一層理解を深めるため多くの演習問題を通して指導していきたい。
データの活用	●市と県の平均を、それぞれ2.4ポイント・0.4ポイント下回っている。 ●「度数分布表から、ある階級の相対度数を求める」では、市の平均を9.3ポイント、県の平均を6.4ポイント下回っている。 ●「ある結論を出すために必要なデータを選ぶ」では市の平均を7.4ポイント、県の平均を5.7ポイント下回っている。	・データの活用については、全体的に理解している生徒は少ない傾向にあるので、学年全体として問題演習を通して理解を深めさせたい。 ・授業でも「データの活用」に関する問題の解説をする機会を設けて、関心意欲も高まるように指導していきたい。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.9	42.8	40.8
	粒子	58.7	54.2	52.0
	生命	69.4	66.4	63.8
	地球	33.4	36.2	34.5
観点	知識・技能	57.1	55.2	53.3
	思考・判断・表現	43.8	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

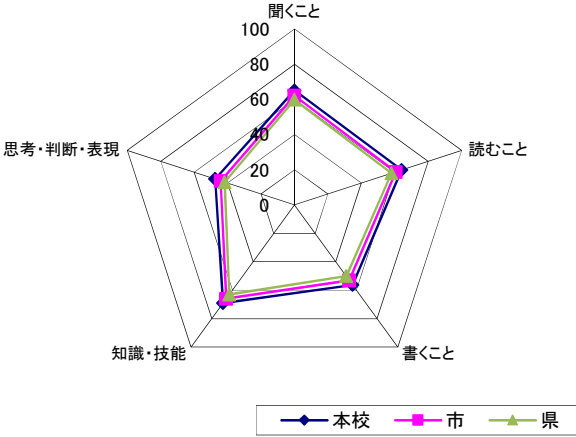
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「スクリーンに映っている像を選ぶ」に関する問題の正答率は61.2ポイントで、市平均より6.1ポイント上回っている。 ●この領域の正答率は市平均を1.9ポイント下回っている。特に「音を高くするときの弦のはりと振動数」に関する正答率は、市平均より6.0ポイント・県平均より4.8ポイント下回っている。	・実験・観察の結果を分析し、解釈するための言語活動の機会を取り入れる。 ・実験や観察では、必要に応じて再実験ができる時間を確保する。また、振り返りの時間をつくることで、科学的な言葉や概念を用いて考えたり説明したりする活動を増やし、知識の向上を図る。
粒子	○この領域の正答率は、市平均を4.5ポイント・県平均を6.7ポイント上回っている。特に「アンモニアの集め方と性質」に関する正答率は市平均より19.4ポイント、県平均より22.9ポイント上回っている。 ●「エタノールの状態変化を粒子モデルから選ぶ」に関する問題の正答率は、市平均より7.5ポイント・県平均より3.0ポイント下回っている。	・「物質は粒子でできている」という粒子概念を持たせられるよう、具体例をICT機器を用いて視覚的・印象的に伝え、知識として定着するような工夫をする。 ・質量パーセント濃度や溶解度に関する計算問題では、思考を可視化することを強調しながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。
生命	○この領域の正答率は、市平均を3.0ポイント・県平均を5.6ポイント上回っている。特に「イモリの生活場所」に関する正答率は、市平均より7.8ポイント・県平均より9.7ポイント上回っている。 ●「胚珠の名称とイチョウの雄花」では、市・県平均より上回っているものの正答率は44.1%と低い。	・観察や実験を通して、実物や目の前で起こった事実から得た知識の方が、生徒には学力として定着しているということが如実に現れている。実体験を積むための主体的な観察・実験をできるだけたくさん授業に取り入れ、単なる重要語句の暗記だけでなく、理由を説明したり、実験観察から考察させたりする機会をさらに多く設定し、思考力・表現力を高めさせる。
地球	○「鉱物と火成岩の名称」に関する正答率は、市平均を2.9ポイント・県平均を4.5ポイント上回っている。 ●この領域の正答率は、市平均を2.8ポイント・県平均を1.1ポイント下回っている。特に「P波の速さ」に関する正答率は、市平均より5.0ポイント・県平均より3.1ポイント下回っている。	・地層の重なり方・広がり方についての規則性を見いだして理解させるために、映像や資料を用いて、離れた地点の幾つかの地層や剥離標本を比較することで問題点を見だし、火山灰層や砂層などを手掛かりに問題点を解決させる授業を展開する。 ・火山活動による恩恵や、火山災害・地震災害をICT機器等を用いて調べさせ、興味・関心を高めるとともに自然と人間のかかわりについて深く考えさせる。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	65.1	62.0	59.7
	読むこと	64.1	60.6	58.0
	書くこと	56.3	53.1	50.1
観点	知識・技能	69.1	66.0	63.0
	思考・判断・表現	47.4	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全ての設問における正答率が市・県平均を上回っている。 ●対話文を聞き、自分の考えを交えながら適切な応答を答える問いの正答率が3割に満たず、かつ無回答率が2割を超えている。	・英文を聞いて理解することはできても、自分の意見を言語化することに躓きが見られる。そのため、即興性を求める言語活動を通して英語で相手に伝えようとする力を伸ばしたい。 ・ディクテーション等の活動を通して要点を捉える力を伸ばす。 ・発音指導を継続し、より正確に英語音声聞き取る力を育成する。
読むこと	○全体正答率が県・市平均を上回っている。 ○語形・語法の知識・理解に関する問題や、英文の読み取りの問題における正答率が、県・市平均に比べて約2～10ポイント上回るなど顕著である。 ●県・市平均を超えてはいるものの、対話文や短い英文から読み取った情報を元に正答を選ぶ問題の正答率が、やや低い。	・文の読解だけで完結するのではなく、理解した内容を再編集して相手に伝える活動を行うことにより、理解力を伸ばしたい。 ・より正確に読み取るために必要な語彙の獲得を目標として、既習内容の復習を適時実践する。 ・単語と熟語の導入において、実際の運用場面を想定させることで、より一層の定着を目指す。
書くこと	○全体正答率が県・市平均を上回っている。 ○短い文で答える条件英作文問題において、各小問ごとの正答率が県のそれらと比べて概ね6～15ポイントずつ上回っている。 ●問題の3領域(聞く・書く・読む)中、正答率と無回答率が顕著に高い。	・インプット(聞く/読む)活動に、アウトプット(書く/話す)活動を組み合わせて実施することで、自分の言葉で発信しようとする力を伸ばしたい。 ・既習事項の反復練習を実施し、会話の応答や適切な発問の仕方について定着を図る。 ・単語や文法の用法について、一語一訳とせず多様な表現を伝え、柔軟に活用できるよう支援する。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の復習をしている」について肯定的回答をした生徒の割合は82%で、県平均より11.65ポイント、市平均より15.6ポイント上回っている。また「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答割合は73.3%で県平均より9.8ポイント、市平均より105ポイント上回り、「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」については74.7%の肯定的回答ありであった。これは県平均より9.63ポイント市平均より10.95ポイント上回っている。学習に自ら取り組む生徒が多いので今後も良い取り組みを紹介したり、学習計画表として視覚化したりして、主体的な学習意欲や態度を育成していきたい。

○「将来のために大切だと思いますか」の肯定的回答割合は理科78%、社会86.7%といずれも県平均より9.5ポイント8.7ポイント上回っている。音楽・美術以外については将来に大切だと思っている生徒が87%であった。ほとんどの生徒が教科の有用性を感じており、学習意欲になっていると思われる。また数学については「好き」と答えた肯定回答割合は62%だったが、県平均より8.75市平均より10ポイント上回っている。習熟度別学習の様子や生徒自ら再テストに取り組みに来る姿からも数学が好きな生徒が多いことが伺える。個に応じた丁寧な指導を今後も継続していきたい。

○「授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定回答割合は理科57.34%数学54%であった。これは県平均より理科7.8ポイント数学6.48ポイント上回っている。市平均よりは理科8.17ポイント数学7.98ポイント上回っている。自分で調べたり、深く考えようとする生徒が多く、授業中も学習課題に取り組みながら、より発展的内容に向かう姿が多く見られる。教員の更なる授業力向上のための研鑽を積みかさねる必要がある。

●「保健体育の学習が好き」の肯定的回答割合は59.33%で県平均より16.69ポイント、市平均より15.46ポイント下回っている。体育館の工事があったり、コロナ禍で運動会が学年別開催だったり、マスクを外してもよいとはいえ、ほとんどの生徒がマスク着用を続けている様子などから、思い切り身体を使った活動をのびのびと行えるところまで及んでいないのではないかと考えられる。徐々にではあるが運動に親しみ、健康指導により一層取り組む必要がある。

●「問題を解く時間は十分でしたか」について、数学46.56%、県平均より15.4ポイント、市平均より16.7ポイント下回った。国語は32.67%であり、県平均より14.08ポイント、市平均より10.38ポイント下回った。時間配分の工夫についての指導をするため、全学級に配置されているタイマーの使用を促したい。また問題文の読解力の向上に向けた指導の工夫をしたい。

●「授業で扱うノートには、学習の目標尾(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定回答割合は74.66%で、県平均より11.73ポイント、市平均より7.61ポイント下回った。「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている」には96%が肯定的回答をしている。また「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」のは78.67%であったので、まとめの活動は生徒PCや学習プリントで行っていて、ノートに書かせていない教科もあるからだと思われる。ふり返りに取り組む生徒の割合が目標を示した時より18ポイントも下がっているため、毎時間振り返りを行うよう授業を工夫し、学習の定着につなげていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の家庭学習の充実	学習活動の展開を工夫し、より高いレベルでの学習態度の育成を図る。宿題や課題の出し方を工夫したり、自主的に家庭学習に取り組む態度を強化する。	「家で学校の授業の復習をしている」「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の肯定割合が、県や市の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
言語活動において、国語科の「書くこと」が県や市の平均値より下回っている。また、数学科における「データの活用」においても同様の傾向であった。	「正確に理解し適切に表現する活動」を意図的に取り入れ、書く力やデータを活用する力を伸ばす指導の工夫を図る。	全教科を通して、単元等の振り返り活動において、「書くこと」を継続指導し、自分の考えを文章で表現する活動に積極的に取り組ませる。また、資料活用に関しては、数学科に限らず他の教科においても同様の意識をもって取り組ませたい。